

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成24年11月14日

**【四半期会計期間】** 第15期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）

**【会社名】** 株式会社Eストアー

**【英訳名】** Estore Corporation

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役 石村 賢一

**【本店の所在の場所】** 東京都港区西新橋一丁目10番2号

**【電話番号】** (03)3595-1106

**【事務連絡者氏名】** 取締役兼執行役員  
コーポレートセンター担当 柳田 要一

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区西新橋一丁目10番2号

**【電話番号】** (03)3595-1106

**【事務連絡者氏名】** 取締役兼執行役員  
コーポレートセンター担当 柳田 要一

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第14期 第2四半期 連結累計期間	第15期 第2四半期 連結累計期間	第14期
会計期間		自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高	(千円)	2,375,083	2,973,089	5,337,150
経常利益	(千円)	251,964	350,594	503,686
四半期(当期)純利益	(千円)	152,000	207,977	280,713
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	144,206	214,449	264,186
純資産額	(千円)	1,689,172	1,925,925	1,809,283
総資産額	(千円)	3,494,499	4,102,956	4,012,746
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	3,574.47	4,890.72	6,601.30
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	3,573.29	4,890.60	6,599.75
自己資本比率	(%)	47.6	46.4	44.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	184,491	442,442	592,548
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	17,247	450,681	82,083
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	156,526	100,374	159,155
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,981,307	2,214,530	2,327,166

回次		第14期 第2四半期 連結会計期間	第15期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	1,256.61	2,434.29

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には消費税等は含まれていません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

#### (1) 業績の状況

Eコマース市場は、引き続き拡大しながらも、質が大きく変化し、いわば「ECの第二楽章」が展開しております。このようななか、当社は当期までの3年間を近未来への積極投資期間と定め、「『開店屋10年』から『売上屋10年』へ」というスローガンのもと、ネットショップの普及、顧客数の拡大から、お客様の売上・利益創出の支援へと、大きく事業モデルの転換を図るための積極的な投資を継続しております。同時に、期初の計画どおり、予測しているトラフィック爆発（スマホトラフィックによる）に備え、サービス運転の「高速安定を最優先事項とする」考えのもと、抜本対策を実施しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は2,973百万円（対前年同四半期比25.2%増）、営業利益は353百万円（対前年同四半期比41.1%増）、経常利益は350百万円（対前年同四半期比39.1%増）となり、四半期純利益は207百万円（対前年同四半期比36.8%増）となりました。

なお、前第2四半期連結累計期間の財務諸表においては、連結子会社である株式会社プレジジョンマーケティングの連結基準日を前第1四半期連結累計期間の末日としているため、連結損益計算書上では、同社の前第2四半期会計期間の数値のみを連結しております。

報告セグメントの業績は、次のとおりです。

#### ( E C 事業 )

Eコマース市場が引き続き拡大するなか、顧客店舗業績は、受注数 393万回、流通額 442億円となり、対前年同四半期比では受注数の増加に対し、流通額は微減となりましたが、これは当社収益に影響の少ない一部の大型店舗様の解約や非注力領域である依存販路店舗の減少によるものです。一方、店舗業績の8割を占め当社業績に直接影響の強い自社販路の店舗様においては、受注数 311万回、流通額 347億円と対前年同四半期比でそれぞれ約15%ずつ伸ばしており、当社のフロウ（店舗の業績に連動）売上は 887百万円（対前年同四半期比 12.8%増）と順調に拡大しております。また、売上構成では、フロウ売上が全体の 40.6%（対前年同四半期比 2.8ポイント増）となり、店舗獲得のみでなく、店舗業績拡大の施策に注力してきたことが寄与しております。

サービス全体での累計契約件数は 30,484件（前期末比 2,289契約減）となっており、主な減少要因は依存販路の店舗数の減少（前期末比 1,928契約減）であります。また、短期的に自社販路経由の店舗数自体も減少しておりますが、現在当社では、システム提供モデルからマーケティング支援モデル（お客様の売上・利益創出の支援）へと事業モデルの転換を図るなか、従来のように全ての見込顧客に対応するのではなく、成長が期待できフロウ売上への貢献が見込まれる店舗様を中心に獲得を進めるよう営業方針を改めた結果であります。なお、依存販路の減少によるストック（契約店舗数に連動）売上、流通総額への影響は軽微であり、成長が期待でき、フロウ売上への貢献が見込まれる店舗様の増加が流通総額の増大に大きく寄与するものと考えております。

また、7月に事業拠点として札幌市内にコールセンター「札幌マーケティングファクトリー」を開設し、業務の集中と効率化を図るとともに、E Cに関わるプロフェッショナル業務をメインとした就業環境づくりを進めており、お客様の売上・利益創出の支援への体制が整いつつあります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は 2,185百万円（対前年同四半期比 5.0%増）、営業利益は 334百万円（対前年同四半期比 32.0%増）となりました。

#### ( 集客事業 )

連結子会社である株式会社プレジジョンマーケティングにおいて、WEBマーケティングサービスを提供しております。

当該市場の成長率は著しく、今までは事業規模拡大のため、利益率よりも広告取扱総量の増大を重視してきましたが、安定的な案件獲得や資金繰りの改善を受け、利益率の低い大手依存度を下げております。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は同社前年同四半期比で1.5倍の874百万円、営業利益は20百万円となり、利益を生む構造になりつつあります。

なお、前期まで「広告事業」というセグメント名称で表記しておりました同事業について、当期より、より事業内容に則した「集客事業」という名称に変更しております。

(第3四半期以降の取り組み)

第3四半期以降につきましても、当期におきましては期初の計画どおり、中長期的な戦略として、マーケティング支援モデルの完成のためにより一層の積極的事業投資策を行うとともに、予測しているトラフィック爆発(スマホトラフィックによる)に備え、安定化と高速化を基軸とした施策を実施し、障害なしに受注増に対応できるよう努めてまいります。また、短期的には、顧客である店舗様の施策展開に則して、的確な対応がとれる体制作りや意識改革を進めております。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間における総資産は、4,102百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における財政状態は次のとおりです。

(資産)

当第2四半期連結会計期間における資産の残高は、前連結会計年度比で90百万円増加し、4,102百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加187百万円、売掛金の減少133百万円、投資有価証券の増加23百万円、工具、器具及び備品の増加19百万円によるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間における負債の残高は、前連結会計年度比で26百万円減少し、2,177百万円となりました。これは主に、預り金の減少144百万円、未払法人税等の増加79百万円、買掛金の減少54百万円、未払金の増加44百万円によるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間における純資産の残高は、前連結会計年度比で116百万円増加し、1,925百万円となりました。これは、平成24年3月期の配当金支払97百万円があったものの、当第2四半期純利益として207百万円計上したことによりです。これにより自己資本比率は46.4%(前連結会計年度比1.7ポイント増)となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の四半期末残高は、前連結会計年度比で112百万円減少し、2,214百万円（前連結会計年度比4.8%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は、442百万円（前年同四半期は184百万円の増加）となりました。主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益350百万円、売上債権の減少196百万円、減価償却費99百万円であり、減少要因は、預り金の減少144百万円、法人税等の支払額69百万円によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、450百万円（前年同四半期は17百万円の減少）となりました。これは主に、定期預金の預入による支出300百万円、サーバー等の購入に伴う有形固定資産の取得による支出76百万円、ソフトウェア開発に伴う無形固定資産の取得による支出48百万円、投資有価証券の取得による支出23百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は、100百万円（前年同四半期は156百万円の減少）となりました。これは、配当金の支払額97百万円によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1百万円です。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	206,544
計	206,544

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	51,636	51,636	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定の ない当社における標準 となる株式です。 なお、単元株式制度を採 用していません。
計	51,636	51,636		

(注) 提出日現在の発行数には、平成24年11月1日から本四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれていません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成24年9月30日		51,636		523,328		134,852

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
ヤフー株式会社	東京都港区赤坂9-7-1	13,800	26.72
株式会社ユニコム	東京都港区西新橋1-10-2	8,480	16.42
水谷量材	兵庫県淡路市	3,421	6.62
石村賢一	東京都港区	2,570	4.97
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,144	2.21
内山洋	東京都渋谷区	772	1.49
水谷伊津子	兵庫県淡路市	706	1.36
佐藤武志	神奈川県藤沢市	545	1.05
日野秀一	京都府京都市左京区	460	0.89
氣谷忠征	大阪府堺市堺区	281	0.54
計		32,179	62.32

(注) 上記のほか、当社所有の自己株式9,111株(17.64%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 9,111		
完全議決権株式(その他)	普通株式 42,525	42,525	
単元未満株式			
発行済株式総数	51,636		
総株主の議決権		42,525	



【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社Eストアー	東京都港区西新橋 1 - 10 - 2	9,111		9,111	17.64
計		9,111		9,111	17.64

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しています。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けています。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,327,166	2,514,530
売掛金	749,471	615,491
原材料及び貯蔵品	4,687	3,544
仕掛品	400	400
その他	252,790	250,210
貸倒引当金	8,557	9,644
流動資産合計	3,325,958	3,374,533
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品(純額)	171,566	191,442
その他(純額)	15,408	15,173
有形固定資産合計	186,974	206,615
無形固定資産	310,325	305,167
投資その他の資産		
投資有価証券	41,890	64,977
敷金	116,439	120,742
その他	48,284	47,617
貸倒引当金	17,127	16,698
投資その他の資産合計	189,487	216,639
固定資産合計	686,787	728,422
資産合計	4,012,746	4,102,956
負債の部		
流動負債		
買掛金	276,188	221,828
未払金	144,639	189,406
未払法人税等	71,901	151,309
預り金	1,465,405	1,320,600
賞与引当金	61,253	60,442
1年内返済予定の長期借入金	6,000	6,000
資産除去債務	-	498
その他	152,570	203,405
流動負債合計	2,177,960	2,153,490
固定負債		
資産除去債務	10,502	11,540
長期借入金	15,000	12,000
固定負債合計	25,502	23,540
負債合計	2,203,463	2,177,031

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	523,328	523,328
資本剰余金	539,416	539,416
利益剰余金	1,724,373	1,834,541
自己株式	991,853	991,853
<b>株主資本合計</b>	<b>1,795,265</b>	<b>1,905,433</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	2,051	2,420
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>2,051</b>	<b>2,420</b>
<b>新株予約権</b>	<b>2,239</b>	<b>2,239</b>
少数株主持分	13,829	20,672
<b>純資産合計</b>	<b>1,809,283</b>	<b>1,925,925</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>4,012,746</b>	<b>4,102,956</b>

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	2,375,083	2,973,089
売上原価	1,500,228	2,047,325
売上総利益	874,855	925,763
販売費及び一般管理費	1 624,680	1 572,690
営業利益	250,175	353,073
営業外収益		
投資有価証券売却益	4,690	-
受取利息	255	609
受取配当金	945	4
雑収入	924	1,128
営業外収益合計	6,814	1,741
営業外費用		
投資有価証券売却損	1,846	-
支払利息	458	176
為替差損	2,699	4,022
雑損失	20	21
営業外費用合計	5,025	4,220
経常利益	251,964	350,594
特別利益		
投資有価証券売却益	2,249	-
段階取得に係る差益	12,320	-
特別利益合計	14,569	-
特別損失		
関係会社株式評価損	6,389	-
債権放棄損	3,021	-
特別損失合計	9,411	-
税金等調整前四半期純利益	257,123	350,594
法人税、住民税及び事業税	89,290	147,717
法人税等調整額	17,107	12,252
法人税等合計	106,398	135,465
少数株主損益調整前四半期純利益	150,724	215,129
少数株主利益又は少数株主損失( )	1,275	7,151
四半期純利益	152,000	207,977

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	150,724	215,129
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	6,518	680
その他の包括利益合計	6,518	680
四半期包括利益	144,206	214,449
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	145,925	207,608
少数株主に係る四半期包括利益	1,719	6,840

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	257,123	350,594
のれん償却額	1,018	2,037
減価償却費	98,873	99,109
貸倒引当金の増減額(は減少)	370	657
賞与引当金の増減額(は減少)	7,671	811
受取利息及び受取配当金	1,200	613
支払利息	458	176
為替差損益(は益)	2,699	4,022
投資有価証券売却損益(は益)	5,093	-
関係会社株式評価損	6,389	-
段階取得に係る差損益(は益)	12,320	-
売上債権の増減額(は増加)	18,290	196,118
仕入債務の増減額(は減少)	8,918	20,291
未払金の増減額(は減少)	10,945	55,788
預り金の増減額(は減少)	27,214	144,805
その他の資産の増減額(は増加)	22,696	60,604
その他の負債の増減額(は減少)	10,765	10,911
小計	320,391	511,049
利息及び配当金の受取額	698	613
利息の支払額	458	153
法人税等の支払額	136,139	69,067
営業活動によるキャッシュ・フロー	184,491	442,442
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
保険積立金の積立による支出	158	475
貸付けによる支出	33,400	-
貸付金の回収による収入	20,000	2,823
有形固定資産の取得による支出	37,965	76,807
無形固定資産の取得による支出	59,392	48,399
投資有価証券の取得による支出	5,157	23,946
投資有価証券の売却による収入	78,113	-
関係会社株式の取得による支出	3,350	-
新規連結子会社の取得による収入	23,803	-
子会社株式の取得による支出	-	204
定期預金の預入による支出	-	300,000
敷金の差入による支出	-	4,513
敷金の回収による収入	891	-
その他	630	840
投資活動によるキャッシュ・フロー	17,247	450,681

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	11,700	-
長期借入金の返済による支出	47,040	3,000
配当金の支払額	97,786	97,374
財務活動によるキャッシュ・フロー	156,526	100,374
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,699	4,022
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	8,018	112,636
現金及び現金同等物の期首残高	1,973,289	2,327,166
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,981,307	1 2,214,530



【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しています。 これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1,548千円増加しています。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりです。

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
賞与引当金繰入額 20,723千円	賞与引当金繰入額 14,404千円
貸倒引当金繰入額 5,372 "	貸倒引当金繰入額 5,649 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりです。

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高は、四半期連結貸借対照表に掲記されている現金及び預金残高と一致しています。	現金及び預金 2,514,530千円 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 300,000 " 現金及び現金同等物 2,214,530千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月22日 定時株主総会	普通株式	97,807	2,300	平成23年3月31日	平成23年6月23日	繰越利益 剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	97,807	2,300	平成24年3月31日	平成24年6月25日	繰越利益 剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	EC事業	広告事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,082,324	292,759	2,375,083
セグメント間の内部売上高又は振替高		53,446	53,446
計	2,082,324	346,205	2,428,529
セグメント利益又は損失( )	253,260	2,065	251,194

(注) 第1四半期連結会計期間より株式会社プレジジョンマーケティングを連結子会社としたことに伴い、同社の事業を「広告事業」として新たに報告セグメントに区分しています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	251,194
のれんの償却額	1,018
四半期連結損益計算書の営業利益	250,175

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	EC事業	集客事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,185,678	787,410	2,973,089
セグメント間の内部売上高又は振替高		86,962	86,962
計	2,185,678	874,372	3,060,051
セグメント利益	334,232	20,818	355,051

(注) 第1四半期連結会計期間より、前期まで「広告事業」というセグメント名称で表記していた同事業について、より事業内容に則した「集客事業」という名称に変更しています。なお、これによるセグメント情報に与える影響はありません。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	355,051
のれんの償却額	2,037
セグメント間取引消去	59
四半期連結損益計算書の営業利益	353,073

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載したとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しています。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「EC事業」のセグメント利益が1,548千円増加しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりです。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	3,574円47銭	4,890円72銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	152,000	207,977
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	152,000	207,977
普通株式の期中平均株式数(株)	42,524	42,525
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	3,573円29銭	4,890円60銭
(算定上の基礎)		
普通株式増加数(株)	14	1
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月7日

株式会社Eストアー  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉村孝郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山本恭仁子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社Eストアーの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社Eストアー及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。